

## 東京都教育ビジョン第5次(令和6年3月)

- ✓ デジタル化の進展のほか、国際情勢の不安定化等、子供たちの育つ環境には大きな変化が生じており、社会の変化に柔軟に対応しながら、「人」を育む教育の在り方を追求し、子供たちの学びを支えていくことが必要

## &lt;東京の目指す教育&gt;

- 1 子供の意欲を引き出す「学び」
- 2 社会全体の力を生かした「学び」
- 3 ICTの活用による「学び」

## &lt;3本の「柱」に基づき、施策を展開&gt;

- I 自ら未来を切り拓く力の育成
- II 誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実
- III 子供たちの学びを支える教職員・学校の力の強化

東京都総合教育会議  
(令和6年10月17日)社会変化に応じ  
教育理念も変革

- ✓ 「外発的なやる気」から「内発的なやる気」へ
- ✓ 「カリキュラム中心」から「学習者中心」の教育デザインへ
- ✓ 正解主義、平等性、同調圧力から脱却

## 【中教審答申】「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(令和3年1月)

- ① 個別最適な学び(指導の個別化、学習の個性化)、② 協働的な学び、それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

## 高等学校教育の在り方ワーキンググループ 中間まとめ(令和5年8月)

- 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方 <問題意識・課題> \*一部抜粋・要約
- ✓ 1人1台端末環境が整備され、同時双方向型のメディア活用の普及も踏まえ、いつでも・どこでも・どのようにでも学ぶことができるようにするなど、生徒の状況に応じた学びの実現が重要。
- ✓ 多様な生徒が現籍校での学びを継続しながら、多様な学びを実現して卒業できるよう、単位の柔軟な認定、ICT活用の体制・環境整備などを考えていくことが重要。

## 【中教審諮問】教育課程の基準等の在り方について(令和6年12月)

学習指導要領の在り方、柔軟な教育課程の在り方、各教科の目標・内容の在り方等を審議

教育ビジョンを着実に実現するため、総合教育会議や国の検討状況を踏まえ、生徒の個性を重視した「個別最適な学び」、デジタルとリアルの併用、「協働的な学び」など、都立高校における「新たな教育のスタイル」について、検討する必要がある。

# 「新たな教育のスタイル」のイメージ

学びの在り方から見直し、生徒の**興味関心や適性に合わせた教育**を柔軟に展開していくことが重要

## 今後の教育の目指す姿（常にアップデート）

場所・時間	学校内外（外部機関、オンライン）	いつでも学べる
指導者 学習内容	専門家、企業人、ロールモデル＋教員は教科の専門性でサポート	社会課題の探究、新たな価値や解決策
成果物・評価	生徒作成の成果物（研究論文やコンテスト等）を評価	
学び方	生徒がそれぞれの知識や興味のグラデーションに応じて <b>主体的に学ぶ</b>	

予測困難な社会の中で  
新たな価値や解決策を  
創造する人材を輩出

## 今後の学びの在り方のポイント

### デジタルによる教育

- ・いつでもどこでも
- ・AIドリル学習
- ・成果物のデジタル提出
- ・学びの可視化
- ・個別最適で主体的な学び

シナジー効果の発揮

### リアルの教育

- ・大学や企業等を活用
- ・外部の専門家
- ・現実の社会課題
- ・プレゼン、コンテスト
- ・フィールドワーク、ゼミ

デジタルとリアルの  
最適な組み合わせ

主体的・対話的で深い  
学びの実現を目指す

## 東京都発の新たな教育スタイル

D X、制度、教員・組織の観点から、「デジタルによる学び方・教え方の充実」「学習指導要領等の柔軟な運用」「都立高校の教員や組織の見直し」などについて、今後、検討していく

## 「新たな教育のスタイル」を実現するために検討が必要な項目（参考例）

- ✓ 学習指導要領での学びに加え、激変する社会の変化を踏まえ、**未来を生きる生徒が、将来のキャリアの中で必要とする新たな学習**を検討

### （例）新分野のデジタル教材

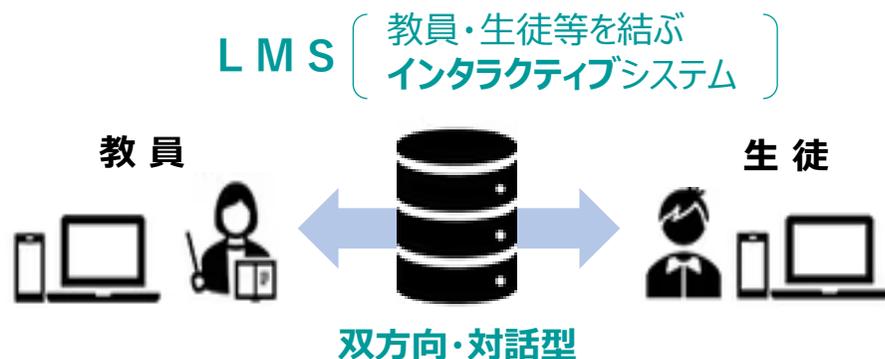
必履修科目例	現代の国語 数学Ⅰ 歴史総合 公共 化学基礎 英語コミュニケーションⅠ 音楽Ⅰ 情報Ⅰ 総合的な探究の時間 等
選択科目例	古典 数学Ⅱ 日本史探究 政治・経済 化学 英語コミュニケーションⅡ 音楽Ⅱ 情報Ⅱ 等 及び <b>その他新分野の科目</b>

【新分野の例】 データサイエンス、生成AI、アントレプレナーシップ、メディアクリエーション、行動経済学、ゲーム理論 など

- ✓ 生徒個々の状況に応じて、**教員が学びの伴走をすることで、生徒が生涯に渡る学習の意義を理解し、学びの意欲を向上させつつ、いつでもどこでも学習できる仕組み**を検討

### （例）学びの成果の可視化

#### LMS（Learning Management System）のイメージ



#### 【機能の例】

- ・セルフ学習マネジメントを可能とする構成
- ・デジタル教材予習・復習、AIドリルで学力向上
- ・学習ポートフォリオ機能
- ・通常科目以外の**新分野のデジタル教材も導入**
- ・CBT機能(小テストを含む)
- ・自宅学習の状況を教員がサポート可能な機能
- ・AIによる学力相談などにも対応